

改善方策実施計画書

担当部局： 管理部

責任者： 事務局長

幹事： 管理部管理課

2010年7月16日

認証評価指摘事項	なし。					
点検・評価問題点	板橋キャンパスの食堂のメニュー、あるいは購買部、書店、コンビニエンスストアで競合する品物の価格把握がなされていない。					
改善方策	10-3-1 板橋キャンパスの食堂メニュー、購買等で競合する品物の価格について価格を均一化する。 (改善方策取り下げ2012年3月)					
計画	前期		中期		後期	
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
						
2010年度実施計画			達成時期	2010年度取り組み結果		
各食堂および購買部での品物の価格調査を実施。			2011.3	☐ A 完全に達成	☐ B 達成半ば	☐ C 未達成
				(B または C の理由) 食堂および購買部での品物の価格調査をおこなった。		
2011年度実施計画			達成時期	2011年度取り組み結果		
価格調査データをベースに価格調整を行う。			2012.3	☐ A 完全に達成	☐ B 達成半ば	☐ C 未達成
				(B または C の理由) 同一の品物ばかりではなく、各店舗のオリジナルの品物およびメニューが多く、均一化は難しい結果となった。		
2012年度実施計画			達成時期	2012年度取り組み結果		
				☐ A 完全に達成	☐ B 達成半ば	☐ C 未達成
				(B または C の理由)		
2013年度実施計画			達成時期	2013年度取り組み結果		
				☐ A 完全に達成	☐ B 達成半ば	☐ C 未達成
				(B または C の理由)		
2014年度実施計画			達成時期	2014年度取り組み結果		
				☐ A 完全に達成	☐ B 達成半ば	☐ C 未達成
				(B または C の理由)		
2015年度実施計画			達成時期	2015年度取り組み結果		
				☐ A 完全に達成	☐ B 達成半ば	☐ C 未達成
				(B または C の理由)		

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	なし。
点検・評価問題点	学内食堂のメニュー、あるいは購買部、書店、コンビニエンスストアで競合する品物の価格把握がなされていない。
改善方策	10-3-1 学内の食堂メニュー、購買等で競合する品物の価格について価格を均一化する。 (改善方策取り下げ 2012 年 3 月)

(2011 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

2010 年度、食堂および購買部での品物の価格調査をおこなった。2011 年度は、このデータをもとに、同一の品物の価格については価格の均一化を図るよう調整する。

所見	学生にとってのサービス向上に寄与する方策が望まれる。
----	----------------------------

(2012 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

2010 年度、食堂および購買部での品物の価格調査をおこなった。2011 年度は、このデータをもとに、品物の価格均一化を図った結果、同一の品物ばかりではなく、各店舗のオリジナルの品物およびメニューが多く、均一化は難しい結果となった。

食堂のメニュー、購買部の品物の価格については学生の福利厚生の一環であるため、今後は学生部に学生サービスとして、環境を整備するよう移管した。

所見	学生サービスの充実を図るため、継続的に環境整備を検討して下さい。
----	----------------------------------

(2013 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

所見	
----	--

改善方策実施計画書

担当部局： 管理部

責任者： 事務局長

幹事： 管理部管理課

2010年3月16日

認証評価指摘事項	なし。					
点検・評価問題点	大規模災害等非常用の備蓄品数量について、明確な必要数が把握できていない。					
改善方策	10-3-3 大規模災害等非常用備蓄品数量の必要数調査。					
計画	前期		中期		後期	
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
				→		
2010年度実施計画			達成時期	2010年度取り組み結果		
学内学生滞留者数の把握			2011.3	○ A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成
				(B または C の理由) 2010.4、曜日別、授業時限別、人数データを収集し、必要数を把握し、非常用備蓄品の準備をおこなった。		
2011年度実施計画			達成時期	2011年度取り組み結果		
学内滞留者用の備蓄品整備			2011.5	A 完全に達成	○ B 達成半ば	C 未達成
				(B または C の理由) 学内滞留者用に飲料水・非常食を追加した。さらに、防寒・保温シートを購入し、非常時事態に備えた。		
2012年度実施計画			達成時期	2012年度取り組み結果		
非常用トイレ整備 学内滞留者用の備蓄品整備および備蓄倉庫設置			2013.3	A 完全に達成	○ B 達成半ば	C 未達成
				(B または C の理由) 学内滞留者用の水不要トイレ、飲料水・非常食を追加した。さらに、備蓄倉庫設置し、非常時事態に備えた。		
2013年度実施計画			達成時期	2013年度取り組み結果		
学内滞留者用の備蓄品整備 (飲料水・乾燥米等、非常食)			2014.3	A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成
				(B または C の理由)		
2014年度実施計画			達成時期	2014年度取り組み結果		
				A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成
				(B または C の理由)		
2015年度実施計画			達成時期	2015年度取り組み結果		
				A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成
				(B または C の理由)		

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	なし。
点検・評価問題点	大規模災害等非常用の備蓄品数量について、明確な必要数が把握できていない。
改善方策	10-3-3 大規模災害等非常用備蓄品数量の必要数調査。

(2011 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

2010. 4、曜日別、授業時限別、人数データを収集し、大規模災害等非常用備蓄品数量を確認したので、今年度、板橋キャンパスでは非常用備蓄飲料水(500 ml 9,600 本)および軽食(かりめい 2 本入り 3,000 個)を確保した。なお、次年度に軽食を追加し、防寒・保温シートを準備する予定である。

所見	迅速な対応を評価する一方で、その確保量が適切かどうかの検証は継続すべきである。
----	---

(2012 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

今年度、非常時における学内滞留者用に飲料水・非常食を追加した。さらに、防寒・保温シートを購入し、非常時事態に備えた。大規模災害等非常用トイレは「水不要トイレ（汚物処理袋）」が 3,000 枚設置済であるが、新たに「災害用簡易組み立てトイレ」を平成 24 年度購入するため、予算計上した。

所見	非常時に対応した環境整備を行っている点を評価できます。引き続き、非常事態に備えての環境整備を検討して下さい。
----	--

(2013 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

今年度も引き続き、非常時における学内滞留者用に飲料水・非常食を追加した。さらに、備蓄倉庫を設置し、非常時事態に備えた。当初、「災害用簡易組み立てトイレ」を購入する予定であったが、利便性を考慮し「水不要トイレ（汚物処理袋）」を購入した。2013 年度においても非常時の学内滞留者用飲料水・非常食を追加購入するため予算計上した。

所見	非常時に対応した整備を計画的に行っている点を評価できます。今後も引き続き環境整備を行って下さい。
----	--

改善方策実施計画書

担当部局： 管理部

責任者： 事務局長

幹事： 管理部管理課

2010年7月16日

認証評価指摘事項	なし。					
点検・評価問題点	点字ブロックについては主たる教室棟である3号館の各階に設置しているが、凹凸があるため、各教室への機材運搬に際し移動等での台車使用時にでる音の問題で、敷地内にある他の建物には未設置である。					
改善方策	10-4-1 点字ブロックの設置。					
計画	前期		中期		後期	
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
2010年度実施計画			達成時期	2010年度取り組み結果		
点字ブロックの設置工事の予算計上。			2011.3	☐ A 完全に達成	☐ B 達成半ば	☐ C 未達成
				(B または C の理由) 2011年度修繕工事予定が多発したため、予算計上ができなかった。		
2011年度実施計画			達成時期	2011年度取り組み結果		
点字ブロックの設置工事完了。			2012.3	☐ A 完全に達成	☐ B 達成半ば	☐ C 未達成
				(B または C の理由)		
2012年度実施計画			達成時期	2012年度取り組み結果		
1号館1F入口および2F・3Fからの大教室移動に伴う自動扉設置。			2013.3	☐ A 完全に達成	☐ B 達成半ば	☐ C 未達成
				(B または C の理由)		
2013年度実施計画			達成時期	2013年度取り組み結果		
			2014.3	☐ A 完全に達成	☐ B 達成半ば	☐ C 未達成
				(B または C の理由)		
2014年度実施計画			達成時期	2014年度取り組み結果		
				☐ A 完全に達成	☐ B 達成半ば	☐ C 未達成
				(B または C の理由)		
2015年度実施計画			達成時期	2015年度取り組み結果		
				☐ A 完全に達成	☐ B 達成半ば	☐ C 未達成
				(B または C の理由)		

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	なし。
点検・評価問題点	点字ブロックについては主たる教室棟である3号館の各階に設置しているが、凹凸があるため、各教室への機材運搬に際し移動等での台車使用時にでる音の問題で、敷地内にある他の建物には未設置である。
改善方策	10-4-1 点字ブロックの設置。

(2011年3月31日現在)

【現状の説明】

2011年度、点字ブロックの設置工事を行うため予算計上する予定だったが、同年、他の修繕工事予定が多発したため、予算計上ができなかった。2012年度には予算計上し、2013年度に設置工事を行う。

所見	今後は、この予定通りに実施すべきである。
----	----------------------

(2012年3月31日現在)

【現状の説明】

2013年度に点字ブロックの設置工事を行う予定だったが、障がい学生（特に視覚障がい者）の受け入れに伴い、今年度、誘導用ブロックの設置工事を実施し、安全な学生生活を送れるよう改善した。

所見	障がい学生（特に視覚障がい者）に対応した環境整備を評価できます。引き続き、学生ニーズに対応した環境を整え、学生が快適な学生生活を送れるように検討して下さい。
----	--

(2013年3月31日現在)

【現状の説明】

障がい者の利便性を図るため、板橋校舎1号館の1階出入り口、2階および3階の大教室に繋がる出入り口の自動扉設置工事を実施した。これにより、板橋校舎各棟の出入り口はすべて自動扉が設置される。1号館前スロープ修理、北門および2号館横の段差について修理完了している。スクールバスにおいては障がい学生の授業時間に合わせて低床バスの運行を行っている。

所見	障がい学生を対象とした環境整備を計画的に実施している点を評価できます。今後も引き続き、学生サービスの充実を目的として環境整備を行って下さい。
----	--

改善方策実施計画書

担当部局： 管理部

責任者： 事務局長

幹事： 管理部管理課

2010年7月16日

認証評価指摘事項	なし。					
点検・評価問題点	板橋校舎キャンパス再開発・整備により省エネルギーキャンパスとして十分な機能を有しているが、「エネルギーの使用の合理化に関する法律」「温室効果ガス排出削減」に対応すべく、ファシリティマネジメントの改善が必要である。					
改善方策	10-5-1 2010(平22)年度は、省エネルギー対策委員会の設置を行う。					
計画	前期		中期		後期	
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
						→
2010年度実施計画			達成時期	2010年度取り組み結果		
省エネルギー対策委員会設置。			2010.11	A 完全に達成	○	B 達成半ば
				C 未達成 (B または C の理由) 経済産業局および文部科学省に省エネ法に関する「定期報告書」および「中長期計画書」を提出した。		
2011年度実施計画			達成時期	2011年度取り組み結果		
省エネルギー対策委員会を設置し、温室効果ガス排出削減を目指す。			2012.3	A 完全に達成	○	B 達成半ば
				C 未達成 (B または C の理由) 文部科学省および経済産業省の通達により、電力抑制し、かなりの節電効果があった。		
2012年度実施計画			達成時期	2012年度取り組み結果		
温室効果ガス排出削減			2013.3	A 完全に達成	○	B 達成半ば
				C 未達成 (B または C の理由) 猛暑、厳寒により室温設定は昨年に比べ厳しい結果となった。照度を保つため、昨年間引いた照明は戻すこととなった。		
2013年度実施計画			達成時期	2013年度取り組み結果		
温室効果ガス排出削減 (クールビズおよびウォームビズのポスターを使って節電の呼び掛け、物品(消耗品・備品等)は、極力、再生品・省エネタイプの調達。)			2014.3	A 完全に達成		B 達成半ば
				C 未達成 (B または C の理由)		
2014年度実施計画			達成時期	2014年度取り組み結果		
温室効果ガス排出削減			2015.3	A 完全に達成		B 達成半ば
				C 未達成 (B または C の理由)		
2015年度実施計画			達成時期	2015年度取り組み結果		
温室効果ガス排出削減			2016.3	A 完全に達成		B 達成半ば
				C 未達成 (B または C の理由)		

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	なし。
点検・評価問題点	板橋校舎キャンパス再開発・整備により省エネルギーキャンパスとして十分な機能を有しているが、「エネルギーの使用の合理化に関する法律」「温室効果ガス排出削減」に対応すべく、ファシリティマネジメントの改善が必要である。
改善方策	10-5-1 2010(平 22)年度は、省エネルギー対策委員会の設置を行う。

(2011 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

2010 年度は経済産業局および文部科学省に省エネ法に関する「定期報告書」および「中長期計画書」を提出した。
2011 年度は省エネルギー対策委員会を設置し、温室効果ガス排出削減を図る。

所見	今後は、この予定通りに実施すべきである。
----	----------------------

(2012 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

2011. 3. 11 の大震災および福島第一原発事故のため、文部科学省、経済産業省の通達により、昨年比 15%カットの電力抑制を実施した。教室等の蛍光灯の間引き、空調温度 28℃設定など、学生・教職員の理解・協力により目標を達成した。さらに、温室効果ガス排出削減を図る。

所見	文部科学省及び経済産業省の通達に基づく、電力抑制等の実施を評価できます。今後も、継続的に省エネや温室効果ガス排出削減を図り環境の整備に努めて下さい。
----	--

(2013 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

省エネについては、昨年度に引き続き、無駄な電源の見直しを進めるため、クールビズのポスター等による節電の情宣を行ったが、猛暑の影響で冷房温度を26℃以上に設定せざる得なかった。暖房においては、室温を24℃以下での協力を求めるため、ウォームビズのポスターを使って節電の呼び掛けを行っている。さらに、照度を保つため、昨年間引いた照明は戻すこととなった。物品(消耗品・備品等)調達においては、極力、再生品・省エネタイプにしている。

所見	省エネを目的として電力抑制のための努力を行っている点は評価できます。今後も引き続き、省エネのための環境整備に努めて下さい。
----	---

改善方策実施計画書

担当部局： 管理部

責任者： 事務局長

幹事： 管理部管理課

2010年7月16日

認証評価指摘事項	なし。									
点検・評価問題点	2009(平21)年6月より施行された消防法第36条の防災管理業務を遵守するために、防災に関する知識の強化、組織の確立が必要である。									
改善方策	10-5-2 管理課員の自衛消防隊講習の受講、防災管理者の選任、自衛消防隊の設置後、防災管理計画の作成を行い、学園全体の防災管理体制を整備する。									
計画	前期			中期			後期			
	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度				
						➡				
2010 年度実施計画			達成時期	2010 年度取り組み結果						
消防計画作成及び自衛消防組織設置。 避難訓練実施。			2011. 3		A 完全に達成	○	B 達成半ば		C 未達成	
				(B または C の理由) 2010. 5、所轄消防署に消防計画書を提出。管理課員の自衛消防隊講習の受講終了。なお、今年度、避難訓練を実施できなかったため、次年度実施したい。						
2011 年度実施計画			達成時期	2011 年度取り組み結果						
避難訓練実施。			2011. 11	○	A 完全に達成		B 達成半ば		C 未達成	
				(B または C の理由)						
2012 年度実施計画			達成時期	2012 年度取り組み結果						
避難訓練実施。			2013. 3	○	A 完全に達成		B 達成半ば		C 未達成	
				(B または C の理由)						
2013 年度実施計画			達成時期	2013 年度取り組み結果						
避難訓練実施。			2014. 3		A 完全に達成		B 達成半ば		C 未達成	
				(B または C の理由)						
2014 年度実施計画			達成時期	2014 年度取り組み結果						
避難訓練実施。			2015. 3		A 完全に達成		B 達成半ば		C 未達成	
				(B または C の理由)						
2015 年度実施計画			達成時期	2015 年度取り組み結果						
避難訓練実施。			2016. 3		A 完全に達成		B 達成半ば		C 未達成	
				(B または C の理由)						

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	なし。
点検・評価問題点	2009(平21)年6月より施行された消防法第36条の防災管理業務を遵守するために、防災に関する知識の強化、組織の確立が必要である。
改善方策	10-5-2 管理課員の自衛消防隊講習の受講、防災管理者の選任、自衛消防隊の設置後、防災管理計画の作成を行い、学園全体の防災管理体制を整備する。

(2011年3月31日現在)

【現状の説明】

2010.5、所轄消防署に消防計画書を提出。管理課員の自衛消防隊講習の受講終了。2011年度は引き続き管理課員および新規採用専任事務職員が自衛消防隊講習を受講し、大規模な避難訓練を実施する。

所見	大規模な避難訓練には、多くの教職員が参加できるよう、体制を整えることを期待する。
----	--

(2012年3月31日現在)

【現状の説明】

2011.7.19 板橋キャンパスにおいて大規模な総合避難訓練を実施した。授業中に地震が発生し、火災が起きたことを想定して、学生、教職員、一般来校者とともに、志村消防署の協力を得て、無事終了した。さらに、2011.11.2に志村消防署高島平出張所の協力を得て、主に学生を対象に水消火器を使った部分訓練を行った。

また、新規採用専任事務職員に自衛消防隊講習受講を義務付け、防災についての知識を身につけてもらった。現在、自衛消防隊講習受講者は学園全体で26名。

所見	総合避難訓練の実施や新規採用専任事務職員に対する自衛消防隊講習受講の義務付けなどは、一定の成果をあげており評価できます。今後も、防災・防火を目的として、学生と教職員の知識を向上させることを検討してください。
----	---

(2013年3月31日現在)

【現状の説明】

平成24年6月22日、学生・教職員・一般来校者を対象に志村消防署と協力して総合避難訓練を実施したが、雨天により、避難誘導、はしご車の出動等は中止となったが、水消火および消防署員による防災に対する講話を実施した。今年度はトランシーバーを購入し、自衛消防隊本部班長および地区隊長・地区班長全員に配布し、非常時に備えた。板橋勤務事務職員全員が自衛消防隊員として、誘導・救助等の任務遂行、警備・設備等の委託業者と連携を取りながら、防災に対する意識確認ができた。9月13日、留学生を対象とした起震車、水消火、煙体験等を行い災害の怖さを改めて知った。平成24年11月2日に学生を中心に水消火器を使った部分訓練を行い、災害時に備えた。さらに、新入職員を中心に自衛消防業務講習資格者を増やした。平成23年度に教室・研究室・学科事務室等の転倒防止工事を実施したが、今年度は事務室・倉庫等の転倒防止工事を実施し、板橋校舎内の転倒防止工事はすべて完了している。また、消防点検において、避難用緩降機を実際に作動し、安全性を確認した。平成23年3月東日本大震災後、今年度より週1回放射線量を測定し、ホームページに掲載し、キャンパスの施設管理を行っている。

所見	災害時に備えて様々な取り組みを積極的に行っている点を評価できます。今後も防災と防火を目的とした取り組みを行って下さい。
----	---